

「話し合い」を「活動」へ!車の両輪で学校が変わる

メリット1：子どもたちの学びが充実



多様な大人との関わり
リアルな体験・個別支援の増加

メリット2：教員の働き方改革を実現



本来の業務(授業・子ども対応)に集中!
負担軽減と質の向上

メリット3：地域が元気に!絆が深まる!



地域の教育力向上
生きがい・創出・地域の防災防犯力UP!



このサイクルが先生の負担を減らし、子どもたちの豊かな学びを生み出す!

これならできる!CS・地域学校協働活動導入への3ステップ

STEP1：知る・相談する

まずは情報収集からスタート!



【アクション】 管理職・担当者が情報収集
【ポイント】 「CSアドバイザー」を呼んで勉強会!

STEP2：仲間を見つける

推進員(コーディネーター)候補を探そう



【アクション】 地域のキーマンに相談
【ポイント】 「顔が広い人」が適任!
準備委員会を立ち上げ、地域の想いを聞く

STEP3：やってみる

できることから「小さく」スタート



【アクション】 協議会の設置と活動開始
【ポイント】 あいさつ運動や花壇整備など「今ある活動」から位置付ける

情報発信中

沖縄県では県内外の講師を招き、CSや地域学校協働活動について基礎から実践まで学べる研修会を定期的に開催しています。学校運営のヒントや次の一歩につながる機会として、お気軽にご参加ください。詳しくは県ウェブサイトをご覧ください。

また、文部科学省のウェブサイト「学校と地域でつくる学びの未来」では、関連する施策や制度の情報を確認できます。ぜひ情報収集にご活用ください。



沖縄県



文部科学省



研修会の様子

県内の事例

地域と育む「港川っ子」の未来 浦添市立 港川小学校

1. 質の高い話し合い(学校運営協議会)

ポイントは事前の整理!

- 事前の役員会：校長・推進員・PTA代表等が集まり、課題をあらかじめ整理
- 主な熟議テーマ：「保護者向け講演会」「港川っ子フェスティバル」「学校運営について」等、ニーズに合わせて設定

2. ふるさとを愛する心を育てる(協働活動)

地域人材育成の視点で発達段階に合わせて展開!

- 低学年：昔遊び(お年寄りとの交流)、まち探検(企業訪問)
- 中学年：養蚕・生糸紡ぎ、海の生き物観察・ゴミ減量作戦
- 高学年：地域の歴史再発見、平和学習・キャリア教育

3. 一体的推進の「かなめ」は推進員

学校運営協議会委員を兼ねる推進員を軸としたスムーズな連携!

- 環境づくり：玄関を季節に合わせて装飾し、子どもたちがワクワクする登校風景を創出
- コーディネート：企業の出前授業や地域講師の起用など、学校側の「やりたい」を地域へつなぎ、調整業務を担うことで教員の負担軽減にも貢献



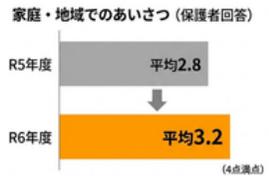
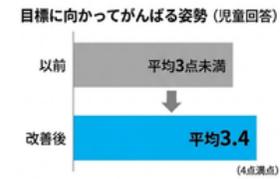
児童玄関の装飾



企業講話のようす

主な成果

児童の主体性が向上!



9年間の「育ち」を地域の「宝」に 名護市立 小中一貫教育校 緑風学園

1. 地域づくりに直結する話し合い(学校運営協議会)

生徒自身が「地域づくり」の視点で学校運営に参画!

- ランチミーティング：年1回、生徒会役員が学校運営協議会に参加
大人と生徒と一緒に給食を食べながら意見交換し交流

2. 「緑風ファミリーネット」による日常的な支援(協働活動)

活動母体を組織化し、部会ごとに小中9年間を見据えた多角的なサポートを実施!

- ふるさと学習・読み聞かせ：学習支援部会が中心となり、地域愛を育む活動を実施
- 緑風グリーンDay：地域連携部会が主体となり清掃活動を実施

3. 推進員が「授業づくり」のパートナー

地域資源に詳しい推進員が、調整役に加えて総合学習の組立てに深く関与!

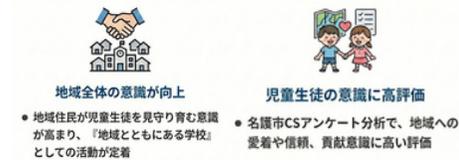
- 地域連携協働授業シート：推進員と教職員が共同で作成し授業づくりを支援
学びのねらいを共有し、協力者との打ち合わせや授業後の振り返りに活用することで、質の高い授業を実現



総合的な学習の時間

主な成果

地域と学校の連携が深化!



その他の事例は
こちらから